

## 「子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in ひょうご」



7月に第1回目を開催した沖縄に引き続き、9月3日（土）に先駆的な取り組みを実施している兵庫県明石市と共催し、「全国キャラバン in ひょうご」を明石市立産業交流センターで開催。240人もの方々にご参加いただきました。

午前中の第1部では、小河光治・代表理事のあいさつに続いて、入江武信・兵庫県健康福祉部子ども局長からごあいさついただきました。そして、明石市の取り組みについて、泉房穂市長から発表いただきました。明石市では、この9月から2人目以降の保育料などの完全無償化などすべての子どもへの支援の充実を図り、またひとり親世帯への相談事業などより支援を必要としている家庭への手厚い支援制度を実施しており、こうした「子ども総合支援」について説明いただきました。

その後のパネルディスカッションでは、「今、ひょうごで必要な子どもの貧困対策は」をテーマに議論しました。パネラーには、石田賀奈子・神戸学院大学講師、鎌田千佳子・尼崎市社会福祉協議会地域福祉課次長、田中遼太郎・にしのみや子ども食堂店長（関西学院大学3年）、茂木美知子・ウイメンズネット・こうべWACCAスタッフに登壇いただきました。コーディネーターは、村井琢哉・山科醍醐子どものひろば理事長（あすのば副代表理事）が務めました。日頃接している子どもたちの現状の報告や今後の支援のあり方などについて議論しました。



午後の第二部には、引き続き100人が参加。「10年後に向けての、子ども貧困対策のために必要なもの・こととは？」というテーマで計14グループに分かれて話し合いました。また、その前段階として「今、子どもの貧困対策のために必要なもの・こととは？」というテーマで話し合ってもらい、その話し合いの内容をKJ法で各グループ3つほどにまとめてもらいました。



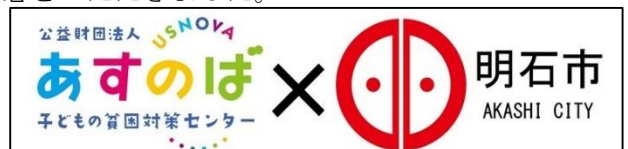
どのグループもそれぞれのグループの色があつてとても興味深かったです。その一方で、どのグループにも共通する意見も出ていました。そして、各グループ出た意見に「私も同じことを考えていた。全くその通りだ」という視点と「その発想は面白い。いいね！！」という2つの視点でお互いの意見を評価してもらいました。その中で、前者で一番人気を集めた意見は「困っている子どもがみえにくい。周りの大人が気づきの目を持つように」という意見で、後者で一番人気を集めた意見は「自己責任の偏見をぶっとばせ！！！」という意見でした。



参加者からは、「身近に食べられない子を見て来て実感があります。『居場所づくり』は重要で、年齢関係なく『居場所がある』と思えることが大切だと思います。私自身、DV、シングルマザー、3人育て、子供のいじめから登校拒否となり、話せる人もなく、また、淋しい思いをした子どもたちがすごせる居場所がその頃にあれば良かった。私自身知識もなく、淋しい思いをさせてしまったと感じています。今後何らかの形で協力したい。(50代女性)」、「これまで"貧困"というものを金銭面に重点を置いて捉えがちだ

ったことに気づきました。"子どもの貧困"の周知及びネットワーク構築により、まず考える脳ミソを増やすことが第一ではと感じます。(20代男性)」、「垣根をこえた情報交換と課題解決にむけての取り組み、子どもたちを1人の人間という認められた上での役割をよく考えていきたい。(50代男性)」、「子どもの貧困のそれぞれの団体のとりくみが聞けてよかったです。身のまわりに貧困の子どもの家庭があるのかどうか、地域のことが非常にわかりにくい。子どもの貧困への自分自身の認識が必要だと思いました。学習することができてよかったです。全国キャラバンは、大変だと思いますが、意義あることだと思いますので、今後も続けてほしいです。(60代女性)」などの感想をいただきました。

今回のイベントロゴは「あすのぼ×明石市」でしたが、協力団体やパネラーのみなさんはじめ、参加者のみなさん全員との「かけ算」になった催しでした。ご協力、ご後援、助成いただきましたみなさま、ご参加いただきましたみなさまに心からお礼申し上げます。



【子どもの貧困対策 全国47都道府県キャラバン in ひょうご】

日時：2016年9月3日(土) 第一部10時～12時 第二部13時～16時

場所：明石市立産業交流センター／主催：公益財団法人あすのぼ／共催：兵庫県明石市／協力：ひょうごコミュニティ財団、コープこうべ、兵庫県弁護士会、明石コミュニティ創造協会、ひょうご子どもカフェ／後援：内閣府、兵庫県、兵庫県社会福祉協議会／助成：公益財団法人キリン福祉財団

参加者：240人